

新型インフルエンザ 分科会の活動

2008年4月09日

特定非営利活動法人 事業継続推進機構 (BCAO)

新型インフルエンザ分科会

※ 本資料の文責は分科会にあり、BCAO全体の見解ではありません。

BCAO 新型インフルエンザ分科会
分科会について

BC基本事項委員会の9番目の分科会として2006年9月に発足。

活動メンバ：46名（2008年4月現在）

※2007年4月時点では29名

座長：日本アイ・ビー・エム 深谷純子

副座長：野村総合研究所 伊藤繁

分科会メンバ企業

(株)野村総合研究所
エヌ・ケイ・リスクコンサルティング(株)
(株)損保ジャパン・リスクマネジメント
(株)三菱総合研究所
東京海上日動リスクコンサルティング(株)
SEMI ジャパン
東京海上日動火災保険(株)
(株)新生銀行
日本アイ・ビー・エム(株)
日本電気(株)
(株)富士通総研
(株)富士通中部システムズ
(株)ブリヂストン
全日本空輸(株)
奥山事務所
日本ユニシス(株)
NTT西日本
(有)シー・エム・エス

慶応義塾大学
京都大学
内閣府
経済産業省
帝人(株)
住友電気工業(株)
松下電器産業(株)
(株)日立ハイテクノロジーズ
川崎重工業(株) 産業医
エーザイ(株)
エイチアイエスコンサルティング(株)
キューピー(株)
(株)ワンビシアークाइブズ
ジラルタ生命保険(株)
リコーテクノシステムズ(株)
コクヨ(株)
徳島商工会議所

活動目的（スタート時）

新型インフルエンザに関する基礎的な理解を深め、 BCP策定の考慮点をまとめる

新型インフルエンザを想定したBCPを策定するにあたって、

- どのようなリスクシナリオを想定すべきか？
- 地震を想定したBCPとの相違点は何か？（共通点は何か？）
- 勉強会としてスタートし、最終的には

「**新型インフルエンザを想定したBCP策定ガイドライン**」

の作成を目指す

活動内容サマリー

アウトプットを作成したものは以下のとおり

- 関連サイト,FAQ,用語の整理
- BCP策定解説書の作成
- 公開されているチェックリストの分類
- 米国ガイドラインの翻訳

活動内容サマリー

その他の活動

- 厚生労働省への質問作成
- セミナー開催(2回)
- 外部セミナーの受講
- メーリングリスト、会合での情報交換

新型インフルエンザ対策チェックリスト

分類	チェックすべきポイント
事前段階(今やるべきこと)	
	インフルエンザ予防喚起および基本知識
	個人向け/家庭向け
	職場対応
	新型インフルエンザをテーマとした危機管理体制・対応手順の検討
	社内体制確立
	要員確保など
	社外との連携
	情報提供
	医療体制整備
	社内感染者/家族感染者発生時のその他検討
	事業所周辺/社員関係者居住地区での感染者発生時の対応
	取引先の感染者発生時の対応
	パンデミックによるリスク分析
	サプライチェーンへの影響
	従業員への影響
	業務全般への影響
	その他人事政策
	出張規程
	勤務形態
	感染者・感染疑い者対策
	備蓄品その他
	消耗品の確保
	予算措置
	訓練計画

チェックリストの
中項目までの
抜粋

(全121項目)

新型インフルエンザ対策チェックリスト

分類	チェックすべきポイント	
事前段階(今やるべきこと)		
海外駐在員対策を必要とする場合	情報収集／発信・通信手段	
	行動指針	
	医療機関・医療支援	
	在宅勤務を検討する場合	
	在宅勤務が可能な業務の検討	
	システム面での考慮事項	
	自宅側環境	
パンデミックフェーズ4以降の一般的対応		
感染拡大防止対策の強化	社内対応	
	家庭での対応	
	感染リスクを軽減するための行動	
	感染エリアへの立入り制限	
	海外勤務者・家族対応	
パンデミック対策予算の発動		
社内/家族発症時の対応		
医療機関との連携		
社内発症時の対応	基本方針	
	社内／家族が罹患した場合の対応	
	発生後の対応	
	安全対策	
	勤務体系の変更	
	会社周辺／社員居住地区／取引先で感染者発生の場合の対応	

チェックリストの
中項目までの
抜粋

(全121項目)

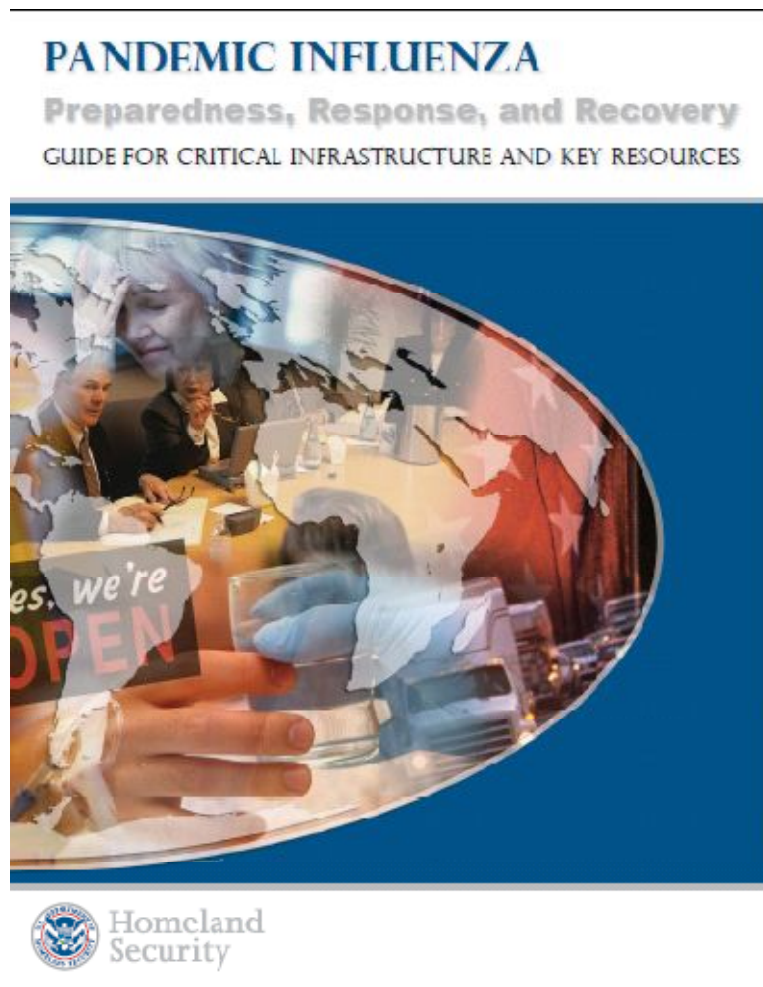
新型インフルエンザ対策チェックリスト

新型インフルエンザをテーマとした危機管理体制・対応手順の検討	
社内体制確立	新型インフルエンザに関する担当部署／実施体制／担当者の決定
	新型インフルエンザ対策担当者に対する予防接種
	新型インフルエンザに関する情報収集・情報発信の一元化体制の構築
	新型インフルエンザに関する検討における専門家(産業医・診療所医師など)の参加
	新型インフルエンザに関する検討における事業継続担当者の参加
	事業継続運用に関する権限者・発動基準・手順の整備
	要員確保など
コア業務担当要員の同時感染防止対策(隔離・分離・シフト・待機など)	業務担当要員の拡大方法の検討
	社外との連携
地方自治体・地域保健所・地域医療機関との連携(発症時の対応手順・連絡体制な	地方自治体・地域保健所・地域医療機関との情報共有
	地域医療機関とのタミフル備蓄に関する協議(可能であれば)
	地域とのパンデミック情報と対応策の共有
	行動対策検討に当たっての地域との連携
	地域貢献
	地域事業所間の連携
	情報提供
情報提供・公開方法に関する整備	
社員に対する情報提供に関する計画策定	
従業員への情報提供内容の検討	
情報の表現に関する留意	
情報の啓蒙と定着への取組	
在宅療養者に対する情報提供	

小項目の例

項目毎に解説あり

米国ガイドラインの翻訳



米国国土安全保障省

「パンデミック・インフルエンザ
に対する対応ガイドライン」
(全84ページ)

メンバ有志による翻訳
(2006年12月～
2008年2月)

パンデミックとは？

パンデミック：pandemic

爆発的な流行

鳥インフルエンザが変異し容易にヒト→ヒト感染を引き起こす「新型インフルエンザ」が発生した場合、人類は免疫を持たないため感染がひろまる。

新型インフルエンザによる感染

人には免疫がないため、ほとんどの人が感染

- **飛沫感染：** 感染した人の咳、くしゃみで感染
(半径1m以内)
- **空気感染：** 空中を浮遊しているウィルス粒子による感染
(飛沫核感染)

厚生労働省の想定

- **国民の25% (約3200万人) が感染**
- **2500万人が医療機関を受診**
- **死亡率2% (約64万人)**
- **スペインインフルエンザの事例を元に試算**

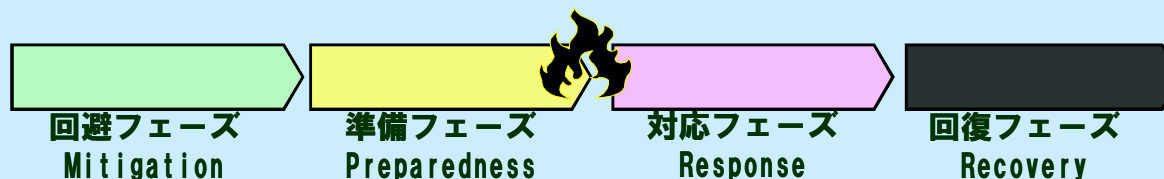
WHOでのフェーズ（現在はフェーズ3）

分類	フェーズ	定義
パンデミック間	1	ヒトへ感染する可能性のある亜型のインフルエンザウイルスを動物に検出。動物で検出されてもヒトへの感染や発症にリスクは低い。
	2	ヒトへ感染するリスクが高い 亜型のインフルエンザウイルスを動物に検出
パンデミックアラート期	③	新しい亜型インフルエンザウイルスによる 動物からヒトへの感染が確認される。ヒトからヒトへの感染伝播はないが、非常にまれに密接な接触者への感染がみられる。
	4	ヒトからヒトへの連続した感染が確認されたが、ウィルスがヒトに十分順応していないため、小さく限られた地域・集団内の限定的な感染である。
	5	より大きな地域・集団でのヒトからヒトへの連続した感染が確認された。まだ完全にヒト間での感染伝播は確立していないが、パンデミック発生のリスクが高まる。
パンデミック期	6	パンデミックが発生し、世界中で急速に感染が拡大

従来のBCPとの違い(対策フェーズの捉え方)

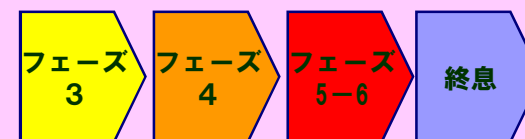
従来のBCP

1. 災害発生後、重要業務を早期に再開させるため、対応フェーズが重要。
2. 災害が発生しても被害を最小化し、最低限の操業レベルを維持する。
3. 指標は RTO (目標復旧時間) RPO (目標復旧ポイント)



新型インフルエンザを想定したBCP

1. WHOのフェーズ毎の対策
2. 予防策、感染拡大防止策など 事前対策が重要
3. 各フェーズは長期にわたる(複数の流行の波)
4. 指標は、感染封じ込み目標、欠勤率に応じた操業度など



※ 本資料の文責は分科会にあり、BCAO全体の見解ではありません。

米国ガイドラインについて

『目的』

従来のBCPを概念を超えた対策の必要性が求められる
パンデミック・インフルエンザに対して米国が定めた17
の重要インフラ/重要リソースに係る民間企業での対
策をガイドする。

『パンデミック時の状況』

1. 出勤可能な従業員の減少
2. 人と物資の移動への影響
3. サービスや業務への影響



**政府と民間企業が協力
して準備し対策を講じ
ることが重要**

封じ込め対策（米国ガイドラインより）

1. **隔離**： 感染症患者を自宅、病院等に隔離する
2. **検疫**： 発病していないが疑いのある人の移動制限と隔離
3. **対人距離の確保**： 対人距離を90cm確保する
（握手しない、電話会議、時差休息、在宅勤務 等）
4. **集会場所の閉鎖**： 公共会場の自主的、法的な閉鎖
5. **自宅待機**： 重要業務に関わらない従業員は休ませる
6. **移動方法の変更**： 州境・国境をまたがる移動制限
（運輸業の移動制限、検疫の実施）

2008/2/19 新型インフルエンザセミナー

翻訳終了にあたり 説明セミナーを開催

◆2008年2月19日（火）13:30-17:00

◆エーザイ株式会社 本館ホール

◆230名受講

◆アンケート回収 167

アンケート結果

◆参加目的

- | | |
|------------|-----|
| ➤ BCP策定のため | 36% |
| ➤ 知識習得 | 60% |
| ➤ その他 | 4% |

アンケート結果 (1/3)

◆BCP策定・運用で困っている点

- 計画策定の範囲がわからない
- 被害想定レベルの設定
- 優先業務の決定 (BIA)
- 対策案の方向性
 - ・ 事業再開のタイミング、要員体制 等
- ノウハウがない
- 適切なガイドラインがない
- 社内が無理解、危機感がない
- 国・自治体との連携、作業区分整理

アンケート結果 (2/3)

◆BCP策定・運用で困っている点 (続き)

- 業務要員の確保
- 医療関係の情報不足
- オフィス閉鎖の基準
- 周知徹底方法
- 人事労務関係

アンケート結果 (3/3)

◆ 新型インフルエンザ講演での希望テーマ

- 海外行政の取り組み
- 行政・自治体関連情報
 - ・ 病院ガイド
 - ・ 厚生労働省ガイドラインの説明
- 先進企業の事例
- 具体的なBCP策定方法
- 被害想定に関する考え方
- 対策用品、備蓄に関する情報
- 住民対策
- 新型インフルエンザ基礎知識・概論
- 意見交換会

今後の活動について（案）

◆課題

- ボランティア作業の軽減
- ユーザー企業とコンサル企業
- 地方会員

◆BCP実装への取り組み

- 具体的なBCP策定
- BCP策定担当者の情報交換会
- 事例研究
- 外部講師を招いた勉強会

特定非営利活動法人
事業継続推進機構
新型インフルエンザ分科会

A Specified Non-Profit Japanese Corporation
Business Continuity Advancement Organization (BCAO)